

社会資本総合整備計画（低炭素まちづくり計画 活力創出基盤整備） 事後評価シート

令和2年2月28日

計画の名称	安心・快適な、賑わいあふれるエコみち“あんじょう”																										
計画の期間	平成29年度～平成31年度（3年間）			交付対象	安城市																						
計画の目標	低炭素まちづくり計画に基づき、市街化区域内の都市機能を集約すべき区域で「安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の整備」や「コンパクトで賑わいあふれる都市・地域拠点の形成」を実施し、低炭素化を通じた「安心・快適な、賑わいあふれる」まちの拠点を形成する。また拠点を発信源に、市全体で低炭素化を促進させ、持続可能な「安心・快適な、賑わいあふれるエコみち“あんじょう”」の形成を目指す。																										
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心生活エリアカバー率（%）：市街地整備事業施行面積のうち、老朽した密集市街地の解消など都市基盤の整備により、安心して暮らすことができる生活エリアを83%（H27）から88%（H31）に拡大 コミュニティバス利用者数（人/年）：都市機能の集約配置による都市拠点の強化により、公共交通機関を利用した都市・地域拠点への来訪者数を98,400人（H27）から117,500人（H31）に増加 																										
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H27当初)</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値 (H31末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① ■災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路：30m）のエリアを調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計に占める割合（%） ※都市基盤の整備効果 安全・安心生活エリアカバー率（%）＝（安全・安心生活エリア）／（市街地整備事業施行面積）</td> <td>83%</td> <td>-</td> <td>88%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② ■コミュニティバス利用者数（人/年） ※賑わい・人の集積 都市拠点（JR安城駅周辺）、地域拠点（名鉄桜井駅）内の主要バス停における利用者数（人/年）</td> <td>98,400人/年</td> <td>-</td> <td>117,500人/年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H31末)	① ■災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路：30m）のエリアを調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計に占める割合（%） ※都市基盤の整備効果 安全・安心生活エリアカバー率（%）＝（安全・安心生活エリア）／（市街地整備事業施行面積）	83%	-	88%		② ■コミュニティバス利用者数（人/年） ※賑わい・人の集積 都市拠点（JR安城駅周辺）、地域拠点（名鉄桜井駅）内の主要バス停における利用者数（人/年）	98,400人/年	-	117,500人/年	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																							
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H31末)																								
① ■災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリア（整備された幅員6m以上の道路の道路端から一定距離（概ね幹線道路：50m、区画道路：30m）のエリアを調査し、拠点の市街地における市街地整備事業施行面積の合計に占める割合（%） ※都市基盤の整備効果 安全・安心生活エリアカバー率（%）＝（安全・安心生活エリア）／（市街地整備事業施行面積）	83%	-	88%																								
② ■コミュニティバス利用者数（人/年） ※賑わい・人の集積 都市拠点（JR安城駅周辺）、地域拠点（名鉄桜井駅）内の主要バス停における利用者数（人/年）	98,400人/年	-	117,500人/年																								
全体事業費	合計 (A+B+C)	3,192 百万円	A	3,192 百万円	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%																	
○事後評価（中間評価 フォローアップ報告）の実施体制、実施時期																											
事後評価（中間評価 フォローアップ報告）の実施体制					事後評価（中間評価 フォローアップ報告）																						
R1年10月：第1回社会資本整備総合交付金評価検討会議における事後評価原案の審議 R1年12月：事後評価原案の公表 R2年1月：第2回社会資本整備総合交付金評価検討会議における事後評価シートの精査 R2年3月：事後評価結果の公表					R1年：事後評価を実施、R2年4月以降、確定値によりフォローアップを実施 公表の方法 安城市HPにより公表																						
1. 交付対象事業の進捗状況																											
交付対象事業																											
A 基幹事業																											
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考											
											H29	H30	H31														
2-A-1	街路	一般	安城市	直接	安城市	-	-	安城桜井駅周辺地区（（都）安城蒲郡線ほか7路線）	区画整理 A=93.8ha	安城市					1,868												
2-A-2	街路	一般	安城市	直接	安城市	-	-	安城南明治第一地区（（都）安城碧南線ほか4路線）	区画整理 A=16.7ha	安城市					1,324												
合計											3,192																
B 関連社会資本整備事業（該当なし）																											
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考												
										H29	H30	H31															
合計											0																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																
C 効果促進事業																											
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考												
										H29	H30	H31															
合計											0																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																
※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。																											

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>【災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリアの創出】土地区画整理事業地区内の道路整備が計画的に進捗していることにより、災害等に対して備えのできた安全・安心生活エリアが拡大したと考える。</p> <p>【コミュニティバスの年間利用者数からみた中心市街地の賑わいや集客効果】機能の集約や基盤整備により公共交通機関を利用して、中心市街地内の拠点施設等への来訪者が増加したと考える。</p>			
II 定量的指標の達成状況	指標①（安全・安心生活エリアカバー率）	最終目標値	88%	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・安城南明治第一地区内の公共施設整備が着実に進捗したことにより、同地区における災害に対するまちなか居住機能及び都市機能集積区域の安全性が確保され、多世代の住民が快適に交流し暮らし続けることができる安全・安心生活エリアが拡大したと考える。 ・安城桜井駅周辺地区内の公共施設整備が着実に進捗したことにより、同地区における災害に対するまちなか居住機能及び都市機能集積区域の安全性が確保され、多世代の住民が快適に交流し暮らし続けることができる安全・安心生活エリアが拡大したと考える。
		最終実績値（見込値）	97.29%		
	指標②（コミュニティバス利用者数）	最終目標値	117,500人/年	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・安城桜井駅周辺地区内の公共施設整備などが着実に進捗したことにより、まちなか居住への適正な誘導が進み、コミュニティバスの利用者数が増加したと考える。 ・安城南明治第一地区内の公共施設整備などが着実に進捗したことにより、まちなか居住への適正な誘導が進み、コミュニティバスの利用者数が増加したと考える。 ・また、同時に進めてきた計画「安心・快適な、賑わいあふれるエコまち”あんじょう”」において、中心市街地拠点施設（愛称：アンフォーレ）など拠点施設の集約が図られ、市民が中心市街地を訪れて施設を利用したりイベントに参加する機会が増加した結果、これらの施設を経由するコミュニティバスの利用者が増加したと考える。
		最終実績値（見込値）	140,200人/年		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<p>交付対象事業の目標達成への効果発現状況について、上記目標を補足・補完する指標で整理する。</p> <p>■指標①のその他指標</p> <p>1. 幹線道路の寄与率（%）：①安城桜井駅周辺地区 H27現況値=42.34% R1実績値=51.26% ②安城南明治第一地区 H27現況値= 7.47% R1実績値=46.73%</p> <p style="text-align: right;">（備考） 寄与率(%)は、各土地区画整理事業の全区域に占める面積割合を示している。</p>			
3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>【目標達成状況】定量的指標①及び②が達成見込みとなり、目標である「安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の整備」や「コンパクトで賑わいあふれる都市・地域拠点の形成」を達成し、拠点を発信源に、市全体で低炭素化を促進させ、持続可能な「安心・快適な、賑わいあふれるエコまち”あんじょう”」の形成が計画通り推進できたと考える。</p> <p>【今後の課題】計画策定時に整備方針として掲げていた「安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の整備」や「コンパクトで賑わいあふれる都市・地域拠点の形成」については、事業の進捗に伴い推進されていると考える。しかし、本計画では都市化に向けた都市基盤整備に重点をおいてきたが、今後はこの基盤整備を活かし、都市機能や居住が高度に集積した地域拠点の形成を図り、都市機能が便利に使える集約型都市づくりを展開していく必要がある。</p> <p>【今後の方針】「コンパクトシティ型都市基盤の整備」をさらに充実させ、災害に強く安心で快適なコンパクト型都市基盤の整備を推進することに加えて、都市機能や居住が高度に集積した都市づくりを目的とするネットワークの形成に取り組んでいく。</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安城桜井駅周辺地区及び安城南明治第一地区で整備している路線は、新たに都市計画決定された工業団地への重要なアクセス道路となっている。今後、本工業団地の民間投資・需要を喚起するためには、工業団地の供用の時期に合わせて、継続して事業を実施していく必要がある。 ・住民の事業への関心を喚起するために、まちづくり組織に対し事業の進捗報告や区画整理ニュースの発行を実施している。また、安城桜井駅周辺地区のまちづくり委員会によるウォーキングイベントや軽トラ市の実施により、住民主体の新旧住民交流の場が創出され、住民主体のまちづくりが着実に進んでおり、このような活動について引き続き支援を行っていく。 					

